

評価委員会総合評価

研究課題名：災害をもたらした令和元年度台風の実態解明とそれに伴う防風、豪雨、高波等の発生に関する研究

評価委員

委員長：竹内義明

委員：高薮出、大野木和敏、石原幸司、前田修平、山田雄二、青梨和正、石井雅男、橋本徹夫、齋藤誠、行本誠史、丸本大介

評価年月日：令和2年3月17日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、令和元年度、日本社会に深刻な影響をもたらした台風及び台風に伴う暴風、豪雨、高波発生の特徴及び特異性を明らかにすることを目的とした研究課題である。

本研究により、研究課題代表者のリーダーシップのもと各分野の研究者が協力し、短期間であったにも関わらず、様々な観測データの解析や数値シミュレーションにより、優れた成果を得ており、気象研究所の研究部横断型研究として上手く機能したと評価できる。成果の社会への還元についても、報道発表等がなされており評価できる。また、研究の目標や進め方については、緊急研究であるがゆえに明確な目標を立てつつ、実施しながら目標や研究内容、研究体制を柔軟に対応して進めた点は良かった。外部資金（科研費）による研究との連携がよくなされ、本研究の成果の一部が当該科研費研究にも活用されることも素晴らしい。

一方、成果の社会への情報発信は、被害のある中での情報発信となることから、個々の成果の科学的意義や社会的意義に応じて、適切なタイミングと方法で行うことに十分留意する必要があるであろう。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、当初想定した以上の成果が得られた優れた研究であったと評価する。

なお、今後の成果の活用にあたっては、以下に留意して、取り組んで欲しい。

- ・今後、気象研究所の経常研究に取り込む形で防災気象情報、プロダクトの高度化に資するよう成果を活用して頂きたい。また、新たに見いだされた科学的知見については詳細な解析を進めることによって現象のメカニズム解明や将来の観測システム検討やモデル開発への裨益（ひえき）を生み出して頂きたい。
- ・台風が地球温暖化の影響をすでに受けているのか或いは、地球温暖化によって今後どう変わるのかは社会的関心が高いテーマであり、今後こういった課題にも取

り組んで頂きたい。

- 緊急研究の意義に鑑み、タイミングを逸しないように関係部署とよく調整し、効果的な成果の情報発信に努めて頂きたい。
- 成果の取り纏めにあたっては、科学的意義や社会的意義をひとこと付け加えるだけで研究の価値が大きく高まる。このような観点から、何らかの形で今回得られた成果全体をストーリー付けしてまとめて欲しい。
- 今後に向けて、緊急研究の立ち上げから本庁との調整等の経過について、記録を残すことが大変有用であろう。